

講義名	倫理学概論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	神尾 和寿		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		講義コード	25014

主題と概要

人間はどのように生きべきなのか、同時に、世界はどのようにあるべきなのかを、哲学的な原理から検討していく。

到達目標

まず、生活の根本に倫理的（道徳的）問題が事実として潜んでいることを発見すること。次に、それらの問題を各自が主体的に考えてみる。そして、それらの問題の検討を通して古今東西の有力な倫理思想や基本的な思想史を知ること。以上の三点が、この講義の目指すところである。

提出課題

毎講義時間内に、講義内容に関連した簡単なレポートを課し、その提出をもって平常点に換算する。

評価の基準

平常の状況に関して40%程度、学期末の筆記試験の結果に関して60%程度の比率で、総合評価をする。ただし、原則として、3分の2以上の出席を必要とする。

履修にあたっての注意・助言他

可能な限り、講義に出席すること。単に覚えるだけでなく、自分自身の力で考え直して捉えること。質問等は随時受け付けるので、オフィス・アワーや講義の時間帯を気軽に利用されたし。講義中は、私語厳禁。（従わない学生に対しては、退出を命じる。それにも従わない学生は、その時点で、単位認定に関して「不可」とする。）

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

毎講義ごとに、教員の側でプリントを準備する。また、そのつどの話題に関連する図書等を講義内に紹介する。

授業計画

1. 導入。倫理学とは何か
2. プラトンの思想を通して、道徳の相対性と絶対性を検討する
3. プラトンの思想を通して、共同体のあり方を検討する
4. キリスト教思想における倫理を検討する
5. スコラ哲学ならびにデカルトの思想を通して、知と信との関係を検討する
6. ホッブスならびにルソーの思想を通して、近世の国家体制を検討する
7. カントの思想を通して、人間の本質的な道徳性を検討する
8. フォイエルバッハならびにマルクスの思想を通して、労働の意義や社会構造を検討する
9. ニーチェならびにサルトルの思想を通して、ニヒリズムを検討する
10. H. ヨナスの思想を通して科学技術繁栄の現代社会を検討し、また、ハーバーマスの思想を通してグローバル化している現代社会を検討する
11. 応用倫理学とは何か。ミルならびにベンサムの思想を通して、応用倫理学の原理を検討する
12. 仏教思想における倫理を検討する
13. 老荘思想を通して「無為自然」を検討し、また、儒教を通して人倫社会を検討する
14. 福沢諭吉、西田幾多郎ならびに和辻哲郎の思想を通して、近代日本における倫理を検討する
15. まとめ

予習・復習

授業の進行経過に即して、以下の著作ならびにそれに関する解説書などにあたりながら、授業内容の理解に努めるように。プラトン『テアイテトス』、プラトン『ゴルギアス』、プラトン『国家』、旧約聖書、新約聖書、トマス・アクィナス『神学大全』、デカルト『方法序説』、ホッブス『リヴァイサン』、ルソー『社会契約論』、カント『実践理性批判』、フォイエルバッハ『キリスト教の本質』、マルクス『ヘーゲル法哲学批判序説』、マルクス+エンゲルス『共産党宣

備考

なし